

国への知事意見表明にあたって、現在の天ヶ瀬ダム再開発計画をそのまま容認と受け取られる文言とされないこと、宇治市民、とくに「防災を考える市民の会」の意見を聴かれること、宇治市民や京都府民への説明と懇談の会を開催されることなどを要請します。

2009年2月26日

京都府知事 山田啓二 様

阪神大震災の教訓を忘れず市民のための防災のあり方を考える会  
(略称：防災を考える市民の会、「会」)  
代表 志岐常正(京都大学名誉教授)

京都府民のため、ご精励のことに敬意を表します。

さて、貴職は昨年11月2・3日に開催された「川の全国シンポジウム」で講演をされ、「いかなる問題においても府民から逃げずに真正面から説明し、責任をもって行動するとの覚悟を表明されました。宇治川、淀川の諸問題についても、そのお考えから対処されているものと考えます。

ところで、私ども「防災を考える市民の会」は、自分たち宇治市民の生命と生活を守るために、宇治川とその流域の防災と、それに関わる景観、環境、生態系などの研究を進め、現在国土交通省が進めている宇治川整備計画が宇治市民にとって重大な災厄をもたらす危険性の高いものであることを知るに至りました。

特に琵琶湖後期放流に対応して天ヶ瀬ダムからの放流量を毎秒1500 $\text{m}^3$ とすることの危険性は計り知れないほどのものです。脆弱な槇島堤防が長時間にわたる大流量の放流に持ちこたえるとは考えられません。天ヶ瀬ダム直下の断層の存在など、ダムサイト周辺の脆弱な地質構造が明らかになっており、そうした所での巨大トンネル掘削の危険性も同様です。文化庁から「重要文化的景観」に指定された宇治川一帯の景観・環境破壊も甚だしいものです。

元より私共としても、天ヶ瀬ダムからの放流能力と宇治川の流下能力の増強が一定程度琵琶湖治水対策に寄与することを否定するものではありません。しかし、現況において900 $\text{m}^3$ 程度にすぎないものを1500 $\text{m}^3$ にまで引き上げることの危険性を指摘し危惧するものであります。また現状においても、瀬田川洗堰からの放流能力は以前に比べると格段に改善されており、1500 $\text{m}^3$ でなければならないという積極的根拠は認められません。

宇治川の安全が私共宇治川周辺に居住する市民の「安全・安心」に重大な影響を持っていることは言うまでもないところです。京都府民の「安全・安心」を預かる知事として、是非とも賢明なご判断をいただけるよう重ねてお願いするものです。

以上